

甲斐市立竜王南小学校 自己評価書

令和3年2月5日（金）作成

校長 「野本 眞二」 記述者 職名（教頭）「飯塚 正規」

学校教育目標 「楽しい学校（楽校）の創造ーやる気 こん気 げん気ー」

学校経営方針

- ・「生きる力」をはぐくむ、教育課程の編成と実施
- ・「確かな力」をはぐくむ、わかって楽しい授業の創造
- ・思いやりの心や情操を培い、「豊かな心」をはぐくむ、居心地のよい学校（集団）の創造
- ・たくましく生きるための「健康な体」をはぐくむ、健康・安全な生活と環境の創造
- ・「信頼される開かれた学校づくり」の推進

1 全体評価

○自己評価の結果は、高い水準にあるといえる。

全55問中、肯定的評価（A・B）が100%となったのは、35設問であった。さらに、52設問において、肯定的評価が90%以上であることから、今年度も教育活動全体的に高い自己評価の数値となった。しかし、「ややそう思わない」Cをつけた設問が21設問みられ、昨年度の15設問より否定的評価が増えたことやⅢ 学習指導についての「10 あなたは、ALTと連携して、児童が興味関心をもつような外国語活動等を行っている。」でD回答が唯一あったことも注視したい。

また、児童アンケートの結果では、24設問中（勉強時間・就寝時間・読書時間・スマホの設問以外）18設問において、肯定的評価（A・B）が80%以上である。特に「先生はよく勉強を教えてくださいますか。」については、97.7%で肯定的評価の最高値を示している。一方、D回答とした児童の割合が5%以上であった設問が8設問あった。これは、本年度コロナ禍の生活の中で子供達が昨年度までの安定した生活を送ったものとは異なっていることを表す。

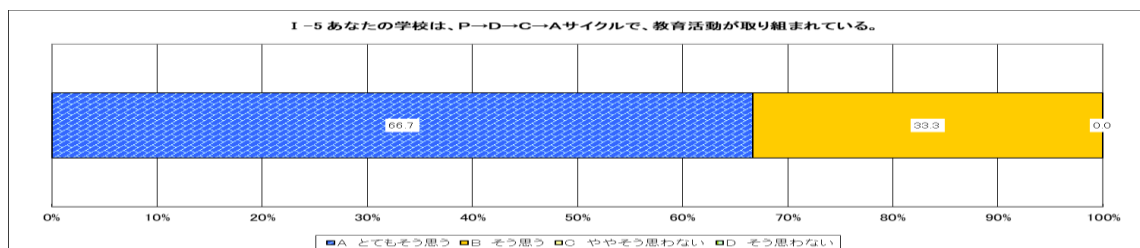
保護者アンケートの結果では、26設問中（睡眠時間・読書時間・スマホ等の時間以外）14設問において肯定的評価（A・B）が80%以上である。また、甲斐市の平均値と比較した場合、「21 お子さんが今住んでいる地域の行事に参加していますか」について肯定的評価（A・B）が本校は78.9%で甲斐市の68.5%を大きく上回っている。

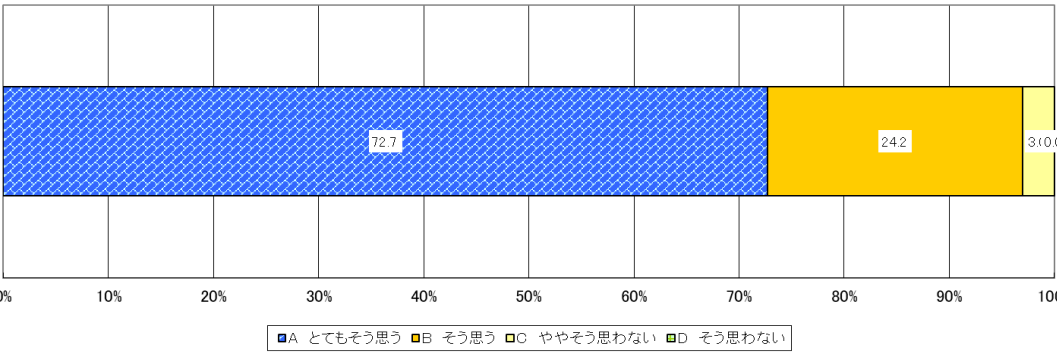
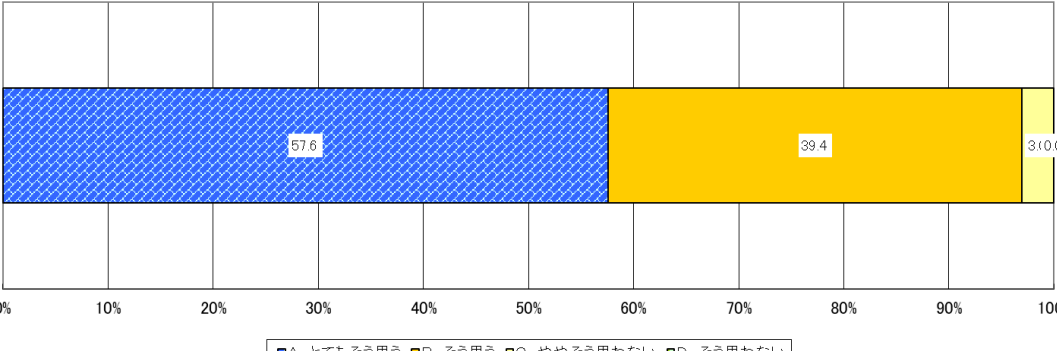
2 項目ごとの評価結果（達成状況・改善策）

I 学校教育目標に関して・学校経営について

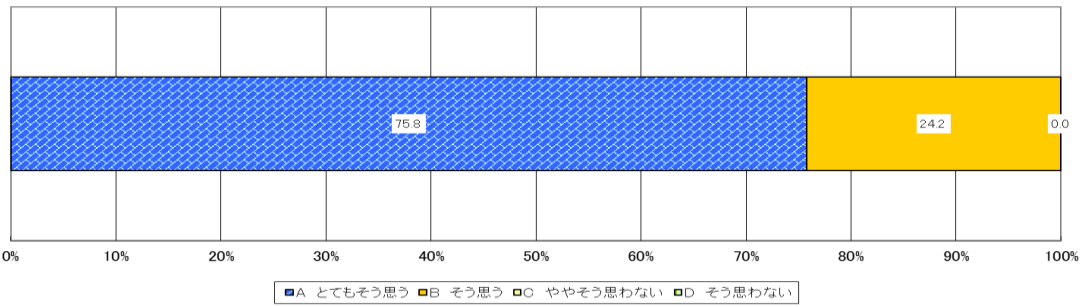
学校教育目標・学校経営についての自己評価8設問中6設問で、肯定的評価（A・B）100%となった。特に、「5 あなたの学校は、P→D→C→Aサイクルで、教育活動が取り組まれている。」「7 あなたの学校は、職場の福利厚生や健康管理について配慮がなされている。」については、昨年度よりA評価の数値が特に向上している。

達成状況

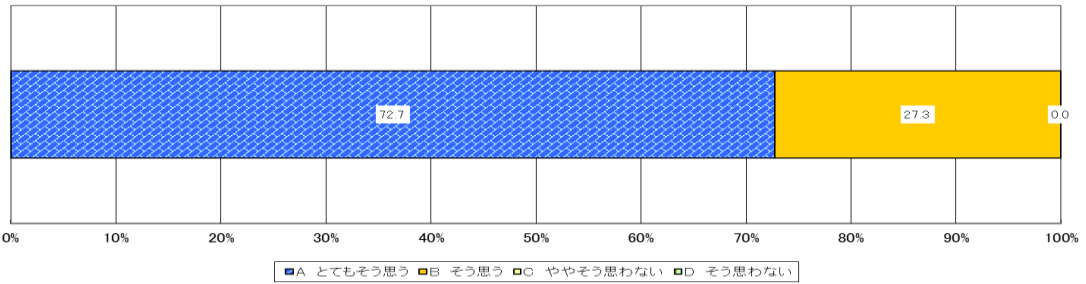


	<p style="text-align: center;">I-7 あなたの学校は、職場の福利厚生や健康管理について配慮がなされている。</p>  <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td>A</td> <td>72.7</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>24.2</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>3.0</td> </tr> <tr> <td>D</td> <td>0.0</td> </tr> </table> <p style="text-align: center;">I-4 あなたは、学校の教育活動計画に基づき、実態に即した教育実践を行っている。</p>  <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td>A</td> <td>57.6</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>39.4</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>3.0</td> </tr> <tr> <td>D</td> <td>0.0</td> </tr> </table>	A	72.7	B	24.2	C	3.0	D	0.0	A	57.6	B	39.4	C	3.0	D	0.0
A	72.7																
B	24.2																
C	3.0																
D	0.0																
A	57.6																
B	39.4																
C	3.0																
D	0.0																
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">改善策</p>	<p>自己評価結果から、「4 あなたは、学校の教育活動計画に基づき、実態に即した教実践を行っている。」「7 あなたの学校は、職場の福利厚生や健康管理について配慮がなされている。」にAB回答が97%となっている。児童や地域の児童や地域の実態に即した教育実践を行うためには、さらに学年・ブロック間などでの綿密な連携を行う必要がある。また、教職員のメンタルヘルスケアには、セルフケア及びラインケアの充実をさらに充実させいく必要がある。</p>																
<p>II 学校運営について（保護者用アンケート等も含めて）</p>																	
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">達成状況</p>	<p>自己評価では、12設問中7設問で肯定的評価（A・B）が100%となっている。特に、「3 あなたは、個人情報保護・情報セキュリティの観点から、諸表簿や文書、記憶媒体を適切に管理・活用している。」「11 あなたの学校は、児童の健康管理について配慮がなされている。」「12 あなたは、職場における教職員の服務について気をつけている。」は、昨年度よりA評価の数値が向上している。ここから、コロナ禍において校長の指導のもと、職員の危機管理や服務規律の維持に対しての意識が向上していることが挙げられる。また、教職員全体で教育課程全般及び教育活動内での児童への健康管理への指導や細やかな配慮を心がけていることもうかがえる。</p> <p>一方、保護者アンケート「1 お子さんにとって、学校は楽しいところだと思う。」93.4%、「4 学校（学年・学級）だより、ホームページなどから教育活動の様子を知ることができる。」91.4%、「6 授業参観や学校開放日などは、子どもの様子を知る機会になっていると思う。」90.3%などの学校運営に関わる質問に対して、肯定的評価（A・B）が90%以上の数値を得ている。これらは、コロナ禍の制限が多い現在の状況において、現状の中での学校運営に良好な結果となり、理解を得ていると捉えることができる。</p>																

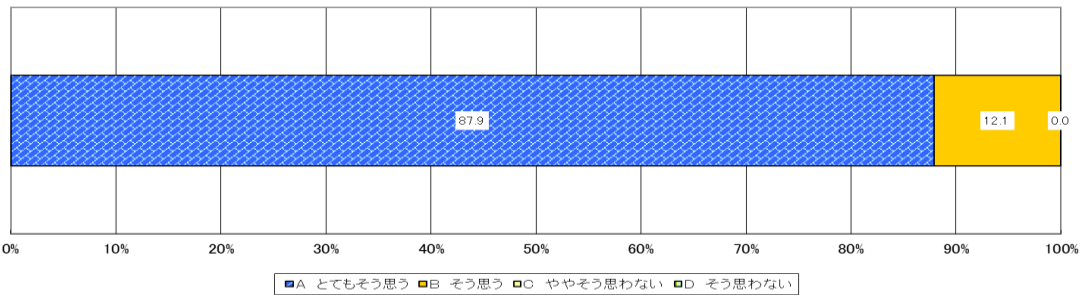
II-3 あなたは、個人情報保護・情報セキュリティの観点から、諸表簿や文書、記憶媒体を適切に管理・活用している。



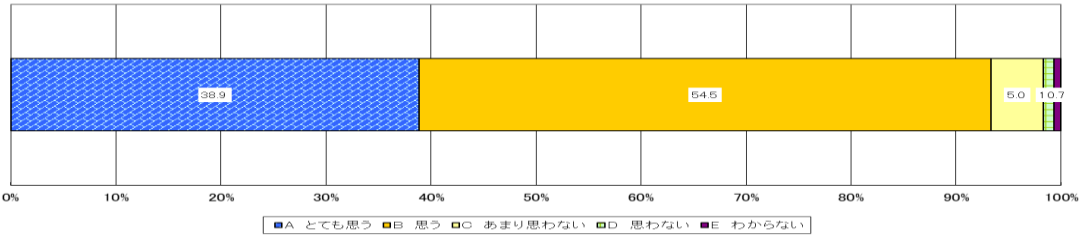
II-11 あなたの学校は、児童の健康管理について配慮がなされている。

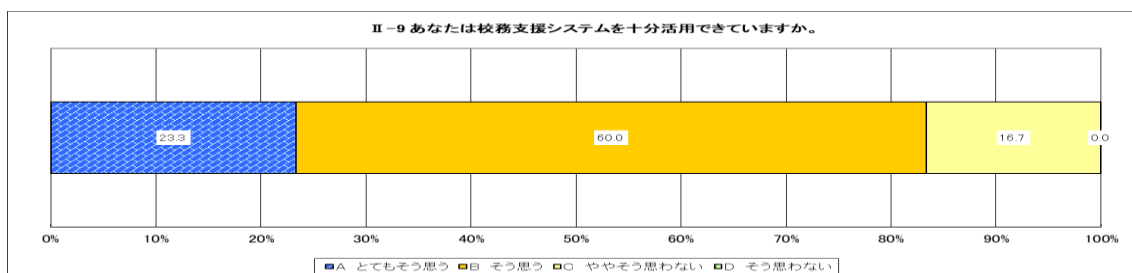
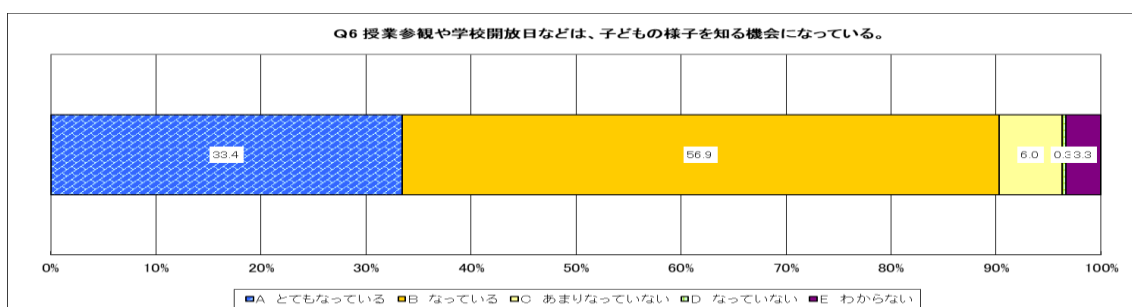
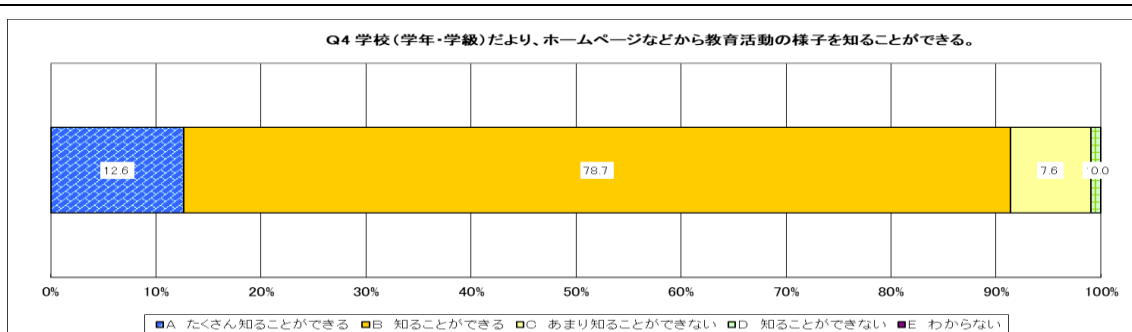


II-12 あなたは、職場における教職員のサービスについて気をつけている。



Q1 お子さんにとって、学校は楽しいところだと思う。





改善策 「9 あなたは校務支援システムを十分活用できていますか」という設問に対してC評価が16.7%である。本年度から導入されたこのシステムに不安や不慣れな教職員があることの表れである。学校として、研修の充実及び教職員の意識改革への対応を行い、より機能的に行われるように努めていく。

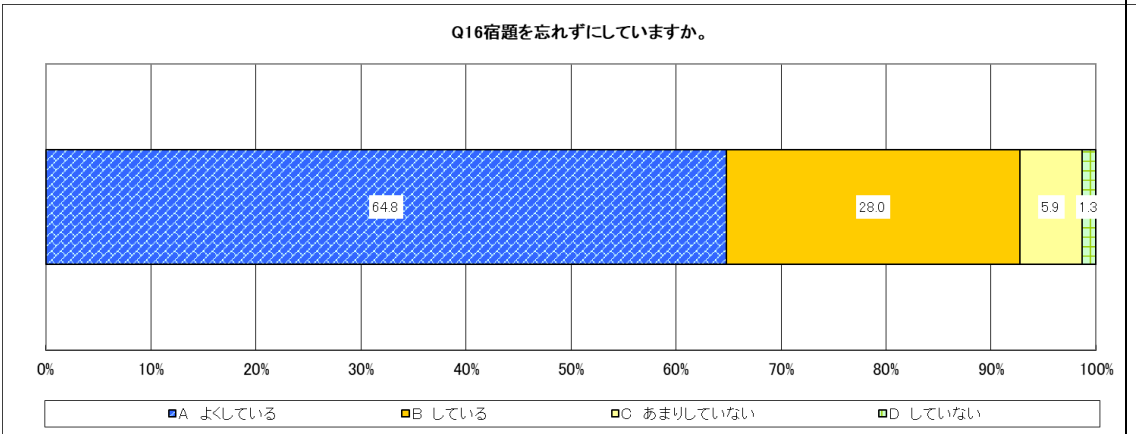
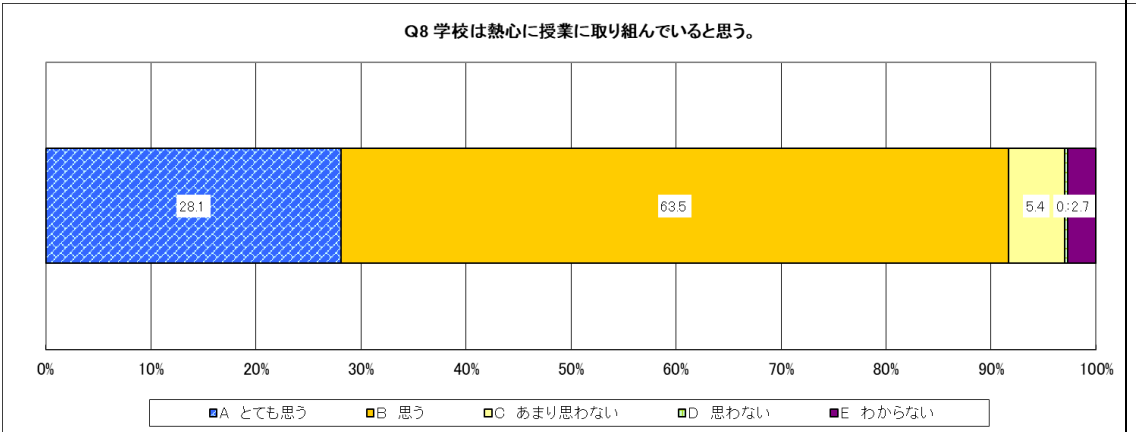
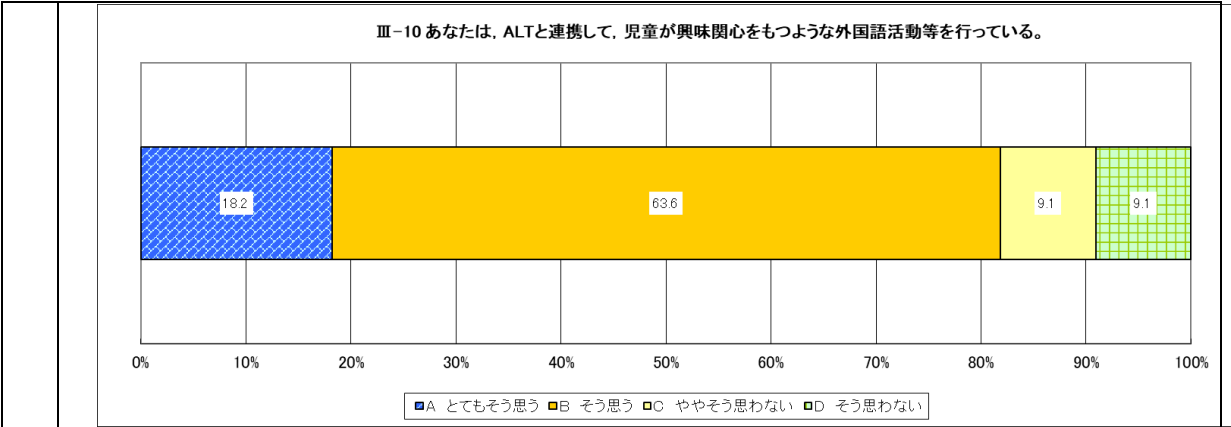
III 学習指導について（児童生徒用及び保護者用アンケート等も含めて）

達成状況 自己評価では、10設問中4設問において肯定的評価（A・B）が100%である。残りの「10 あなたは、ALTと連携して、児童が興味関心をもつような外国語活動等を行っている。」以外全てが90%以上の肯定的評価を得ており、概ね達成できている。

若手教職員が多い中で、「やまなしスタンダード」を意識したり、「主体的・対話的な深い学び」を目指す校内研の成果を活かしたりしながら、授業改善に取り組んでいることがわかる。

保護者アンケートでは、「8 学校は熱心に授業に取り組んでいると思う。」の肯定的評価が91.6%と昨年度よりもさらに高い評価を得ている。

また、児童アンケートの結果から、「16 宿題を忘れずにしていますか。」が92.8%で昨年度より4.9%上昇した。これは、校内研でのワーキンググループで進めている家庭学習週間の設定や家庭学習計画表の作成による保護者との連携が強まったためと考えられる。



改善策
 児童アンケートの「8 外国語の授業は好きですか。」の肯定的評価は66.3%である。「6・7 国語・算数の授業内容はわかりますか。」の肯定的評価は90%以上であったことと比較すると顕著な結果となった。さらに、自己評価「10 あなたは、ALTと連携して、児童が興味関心をもつような外国語活動等を行っている。」においても否定的評価(C・D)18.2%であった。児童・教職員の中に外国語科・外国語活動への不安を感じている者が多い。外国語専科・ALTとの連携を深める時間等の確保等の課題を解決したい。

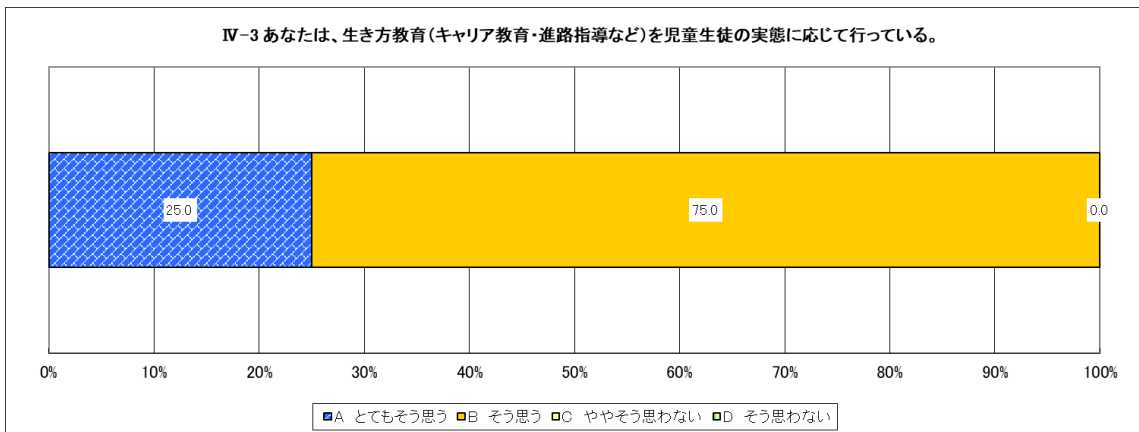
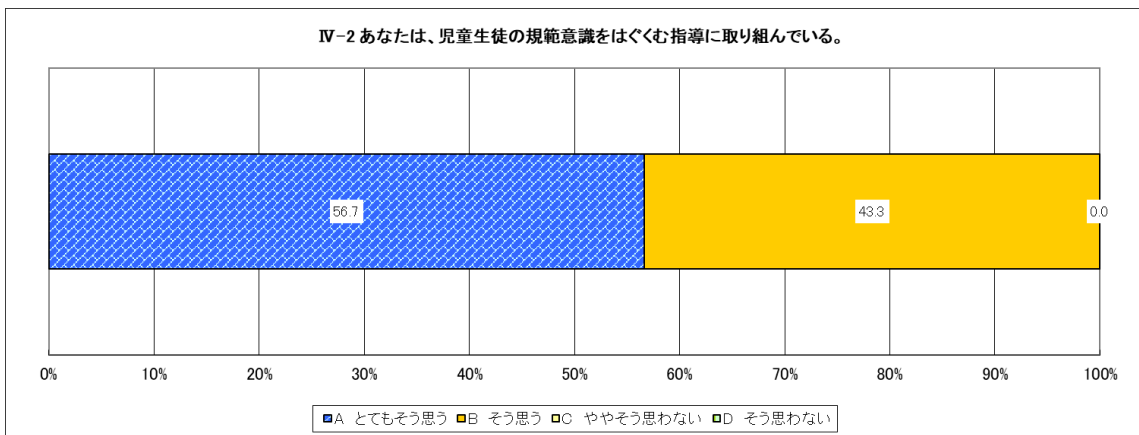
Ⅳ 生徒指導について (児童生徒用及び保護者用アンケート等も含めて)

生徒指導についての教職員自己評価は、設問8問全てにおいて肯定的評価（A・B）が100%となった。

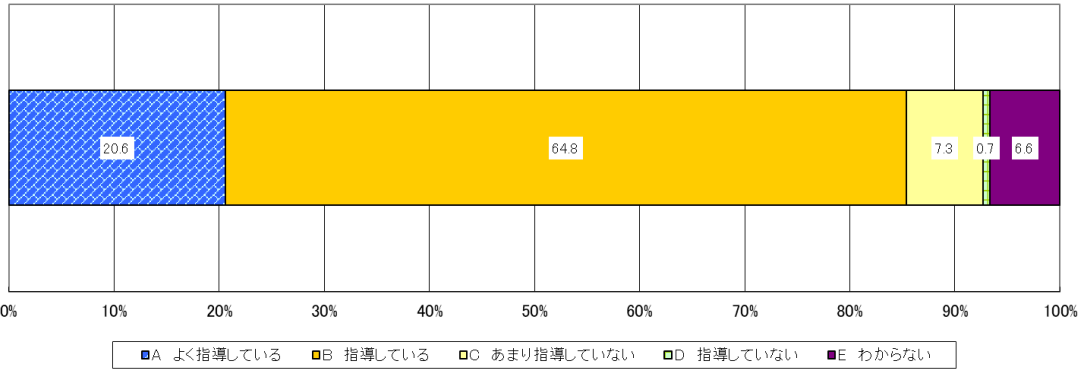
昨年度は、「2 あなたは、児童生徒の規範意識をはぐくむ指導に取り組んでいる。」と「3 あなたは、生き方教育（キャリア教育・進路指導など）を児童生徒の実態に応じて行っている。」が100%でなかったため、今年度は改善を図ることができたといえる。

保護者アンケートでは、「7 学校は、子ども達の間違った行動などに対して、指導していると思う。」において、肯定的評価（A・B）が85.4%となり、昨年度並みの高い数値となった。

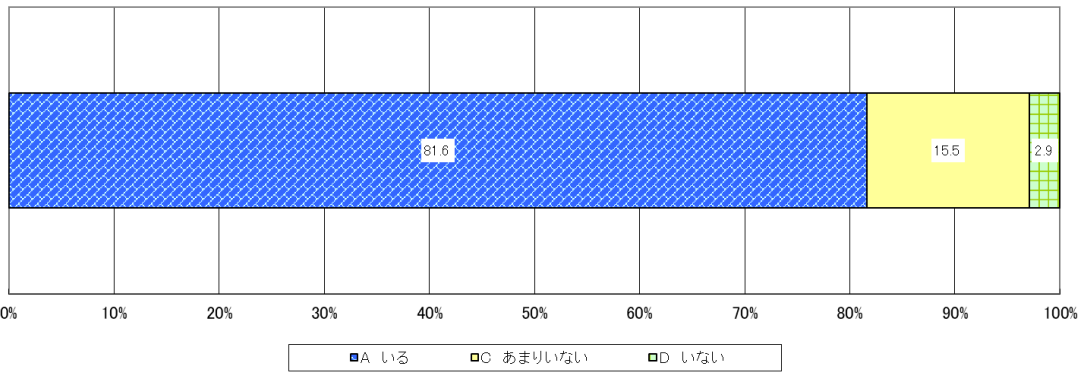
児童アンケートでは、「12 こまったことがあったら、相談できる先生がいますか。」では、肯定的評価が昨年度より4.5%減少しているが、80%以上の高い評価を得ている。また、「15 清掃活動をしっかりしていますか。」は、95.2%と昨年度以上に高い肯定的評価を得ている。これは、児童会活動の無言清掃の取り組みの成果であり、集中して清掃活動を行うことへの意識の向上が考えられる。



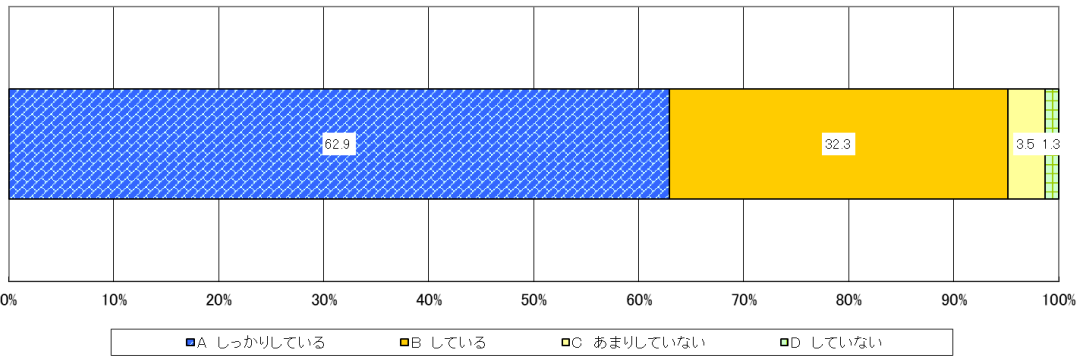
Q7 学校は、子ども達の間違った行動などに対して、指導していると思う。



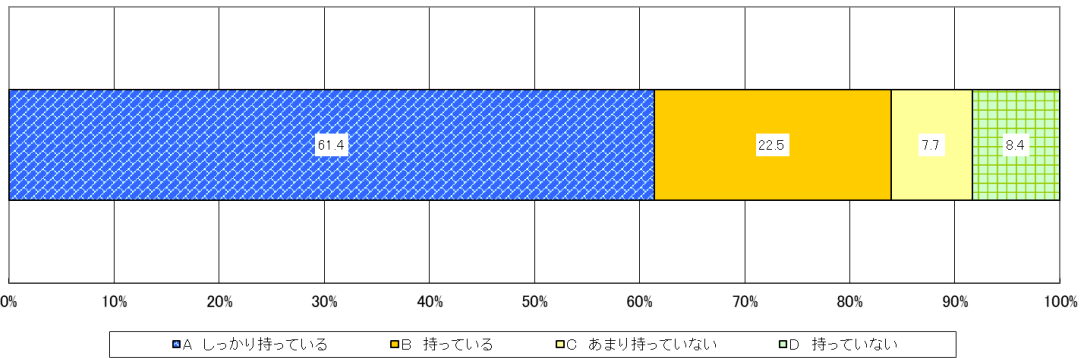
Q12 しまったことがあったら、相談できる先生がいますか。



Q15 清そう活動をしっかりしていますか。



Q25 将来の夢や希望を持っていますか。

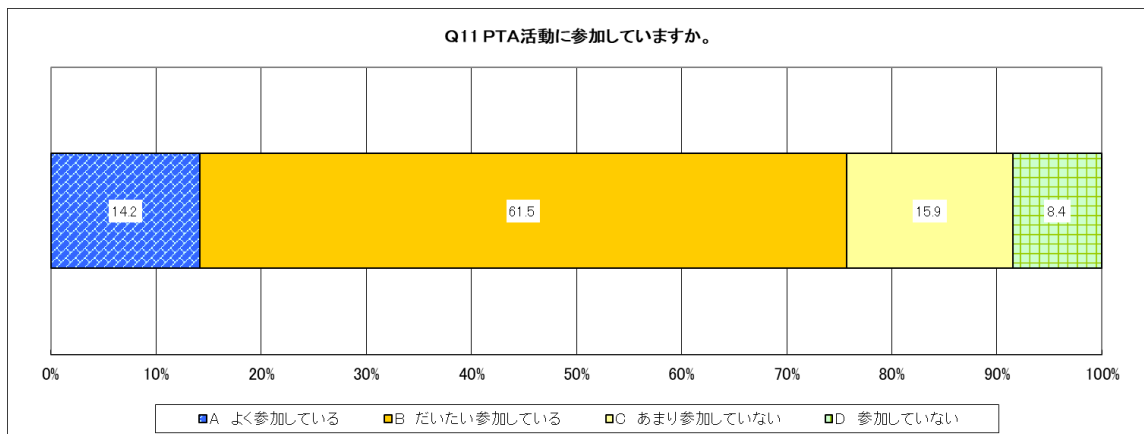
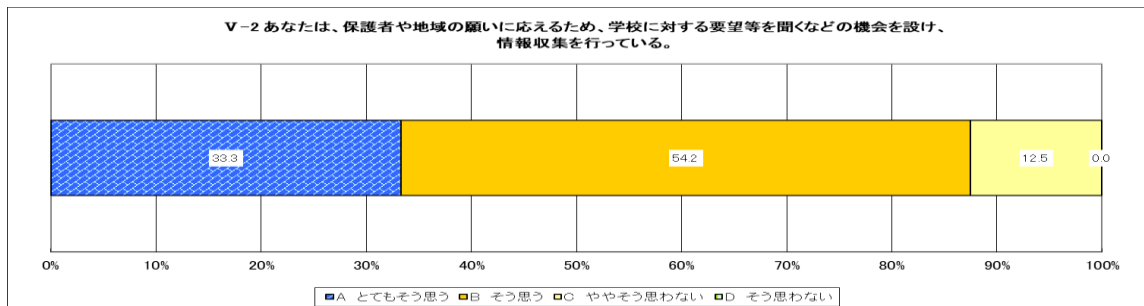


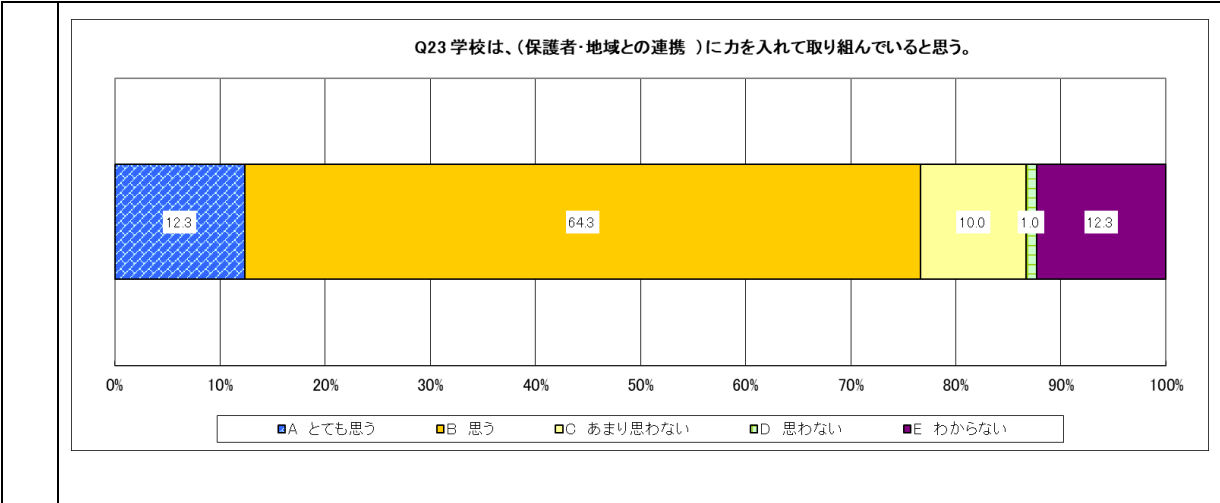
改善策 児童アンケートでは、「25 将来の夢や希望を持っていますか。」の数値が昨年度より4.4%減少している。これはコロナ禍において、子ども達にとって先が見通せない世の中や将来への不安感の表れだと考えられる。そこで、児童の将来に向けて夢や希望が持てるようなキャリア教育・生徒指導を教師と保護者が共に協力して取り組んでいくように努めている。

V 地域との連携について

達成状況 地域との連携についての自己評価9設問中4設問で、肯定的評価(A・B)が100%であった。その他の設問においても肯定的評価の数値は高かった。特に「2 あなたは、保護者や地域の願いに応えるため、学校に対する要望等を聞くなどの機会を設け、情報収集を行っている。」に関して肯定的評価が昨年度より6%大きく上昇した。これは、コロナ禍において保護者や地域住民の声に積極的に耳を傾けることを組織的に行った結果と考える。

一方、保護者アンケートでは、「11 PTA活動に参加していますか」の肯定的評価が75.7%、「23 学校は保護者・地域との連携に力を入れて取り組んでいると思う。」の肯定的評価が76.7%と昨年度よりそれぞれ2.4%・1.9%の減少となった。これらの結果から、教職員と保護者の意識の相違が感じられる。

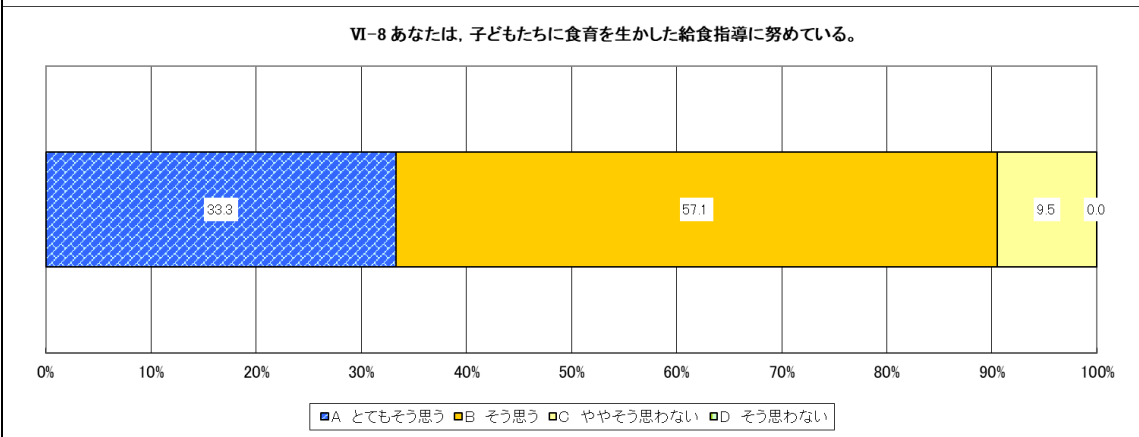
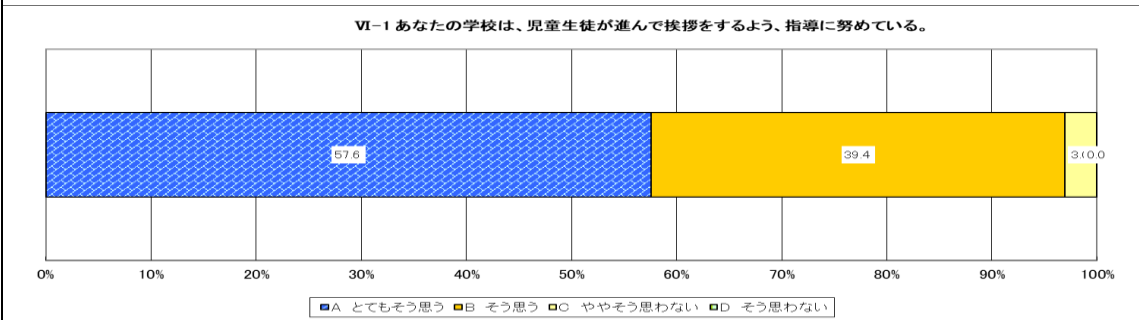


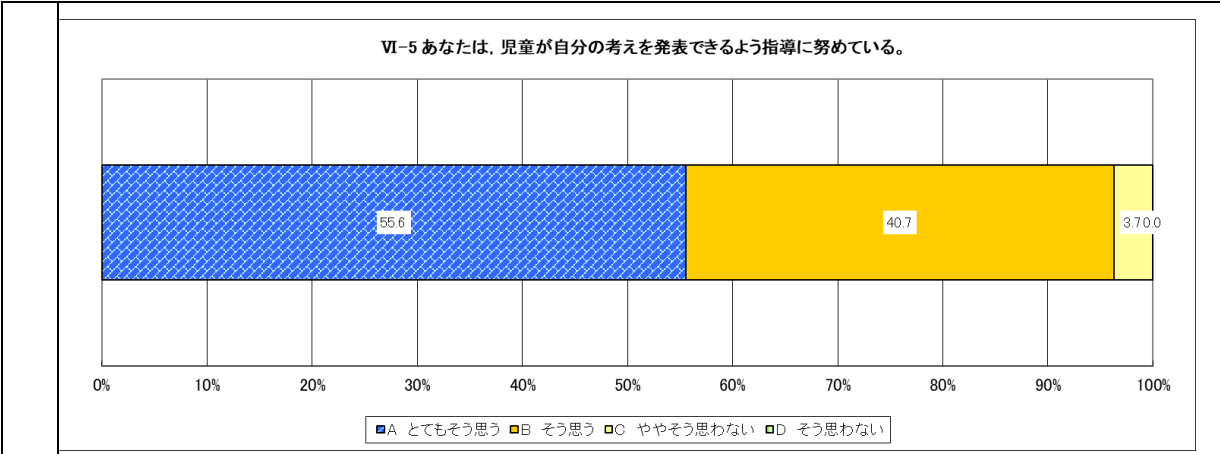


改善策 上で挙げた教職員と保護者の意識の相違の差は、コロナ禍における教育活動やPTA活動が様々な制限を受けていることも1つの要素となっている。コロナ禍では、地域における学校の役割は大変重要であり、地域の願いをくんだ教育活動が求められている。その為には、保護者や地域の要望に迅速かつ丁寧に対応することを全教職員が一丸となって取り組むことを目指していく。そこで、常に教職員間での連携や情報共有に努めていく。

VI 学校の特色に関して

達成状況 学校の特色に関する8設問中5設問で肯定的評価(A・B)が100%であった。「1あなたの学校は、児童が進んで挨拶をするよう、指導を努めている。」において肯定的評価(A・B)が97%と昨年度より3.1%上昇した。これは、児童会活動での挨拶運動であいさつの木の取り組み・小中連携での挨拶運動のなどが定着化したことが挙げられる。「8あなたは、子どもたちに食育を生かした給食指導に努めている。」に関しては、微減ではあるがほぼ昨年度と同数の肯定的評価(A・B)である。





改善策

「5 あなたは、児童が自分の考えを発表できるように指導に努めている。」が昨年度は、肯定的評価（A・B）が100%であったが、今年度は96.3%と3.7%の減少となった。コロナ禍の中で話し合い活動が制限されることに起因する。来年度は、校内研究で「主体的・対話的な深い学び」の研究をさらに充実させていく必要があると思われる。

食育については、カリキュラム・マネジメントの視点から改善を図り、栄養士と担任が日常的に連携して食育の推進を進めていく。給食委員会として、給食集会で食育を全校に推進するなど具体的に取り組んでいく。

3 まとめ

〈成果〉

- ・教職員の自己評価では、どの項目も肯定的評価が高く、全体的に達成できている。全教職員が学校教育目標達成に向かい、校長の学校経営方針の下に共通理解をして教育活動にあたっていることが確認できた。児童・保護者アンケートにもその成果が反映されていた。

〈課題〉

- ・児童アンケート「18 月曜日から金曜日までは、家や図書館などで、一日あたりどのくらいの時間、読書をしますか」の肯定的評価が27.2%で甲斐市平均31.3%より低い数値となった。児童の言語能力の育成を図る為、国語科を中心としながらも学校図書館を中心とした読書活動の充実が必要である。今後は、読書の習慣をさらに身に付ける為に、学校と家庭で連携した取り組みに努めていきたい。

児童・保護者アンケートを含め努力していく事項としては、児童アンケートの「8 外国語の授業は好きですか。」に代表されるように、教職員の自己評価結果とも共通して改善策が必要とされる。また、「10 人前でしっかりと自分の意見を言うことができますか。」については、校内研とも関連するため、授業力向上に向けて研修・研究を深めていく必要がある。

保護者アンケートの「21 お子さんは今住んでいる地域の行事に参加していますか。」でD回答する保護者が多くなった。これは、コロナ禍による行事の中止による影響が考えられるが、この状況下だからこそ、学校が地域の核としての役割を担う必要がある。そこで、保護者・地域住民の情報収集をしつつ、教育活動へ反映させていくことも積極的に行っていく。